

令和3年度 能登町立能都中学校 学校評価目標

本校の教育目標	よりよい人間関係を築き、創造性豊かにたくましく前に進もうとする生徒の育成				
めざす姿	付けたい力 ・一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力 ・疑問を持ち、考え抜く力 ・多様な人々とともに、目標に向けて協力する力	生徒像 ・思いやりのある心豊かな生徒 ・主体的に努力する生徒 ・健康でたくましい生徒	教師像 ・教育に情熱を持った教師 ・信頼される教師 ・能動的に研鑽を積む教師	学校像 ・安心・安全な学校 ・地域から信頼される学校 ・開かれた学校	キーワード ・命 ・学び ・目標

本年度の努力事項	具体的な取組	判定指標
(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校 ① 学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ② 生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ③ 教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。	○行事や体験活動等の実施の際に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。 ○毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。 ○適時的に訓練を実施し、危機管理マニュアルの理解と改善を行う。	[教職員アンケート] ①, ③, ④, ⑤, ⑥ [生徒アンケート] B3・4 [保護者アンケート] ①, ②, ③, ④, ⑤
(2) 生徒の確かな学びを保障する学校 ① 生徒一人一台端末を積極的に活用し、個別最適化された教育の実現に努める。 ② 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。 ③ 体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科横断的な学びを推進する。	○積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。 ○生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。 ○体験活動等の目的やねらいを明確にし、活動後にその成果を実感させる。	[教職員アンケート] ②, ⑧～⑱ [生徒アンケート] A1～8 [保護者アンケート] ⑥, ⑦, ⑨, ⑩
(3) 教師の研修意欲が高い学校 ① ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。 ② 人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。 ③ 日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。	○日々の業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。 ○授業中、生徒を指名する際は呼び捨てにしない。 ○報告・協議事項は事前に紙またはサーバー内で文書化し、周知する。	[教職員アンケート] ⑱, ⑲, ⑳, ㉑ [生徒アンケート] B1・2 [保護者アンケート] ④, ⑤, ⑥
(4) 地域社会の一員として信頼される学校 ① 学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。 ② 学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。 ③ 地域人材や施設を積極的に活用し、社会に開かれた教育課程の構築を進める。	○月2回以上、学校HPを更新する。 ○学校評価結果を学校HPで公開する。 ○各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。	[教職員アンケート] ⑦, ㉒, ㉓ [生徒アンケート] B13 [保護者アンケート] ⑪, ⑫

令和3年度 学校評価中間報告

1 達成目標及び検証

教職員アンケート・生徒アンケート・保護者アンケートの各項目で、肯定的な回答（1+2）の合計85%以上を目指す

2 回答の選択項目

	教職員	保護者	生徒
1	よく当てはまる	よく当てはまる	当てはまる
2	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまる
3	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない	どちらかといえば、当てはまらない
4	ほとんど当てはまらない	ほとんど当てはまらない	当てはまらない

3 評価基準

肯定的な回答（1+2）の割合による評価の基準

- A：85%以上～100%（継続）
- B：70%以上～85%未満（継続・改善）
- C：50%以上～70%未満（要改善）
- D：50%未満（至急対策検討）

(1) 子どもたちが安全・安心に学べる学校					
本年度の努力事項			具体的な取組		
① 学校教育全体を通して、生徒自ら危険を察知・回避する力を育成する。 ② 生徒の変化を敏感に把握し、いじめ等を見逃さない。 ③ 教職員の危機管理意識を磨き、実効性のある仕組みへと常に見直す。			○行事や体験活動等の実施の際に、安全確保について生徒同士が話し合う機会を設定する。 ○毎朝、対面で声かけを行い、個々の生徒の様子を把握する。 ○適時的に訓練を実施し、危機管理マニュアルの理解と改善を行う。		
質問内容			判定		R2 7月
教職員	①	目指す姿を達成するための教育活動を実践している。	A	100.0%	/
	③	生徒の様子の小さな変化にも気付くように意識している。	A	100.0%	A 100.0%
	④	各種アンケートをもとに、人間関係づくりに取り組んでいる。	A	100.0%	/
	⑤	危機管理意識を持って教育活動を行っている。	A	100.0%	/
	⑥	生徒自らが危険を察知・回避する力を育成している。	B	80.0%	/
生徒	B3	学校へ行くのは楽しいと思う。	A	86.3%	A 86.7%
	B4	いじめはどんな理由があってもいけないと思う。	A	95.7%	A 97.2%
保護者	①	お子さんは、学校へ行くのが楽しそうだ。	A	94.1%	A 94.2%
	②	学校は、生徒の安全を守るために努力している。	A	92.6%	A 96.4%
	③	学校は、いじめや問題行動の未然防止・早期発見に努めている。	B	84.6%	/
	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	86.0%	A 97.8%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	85.3%	/
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

◎日頃から生徒の安全に気を配り、職朝で共通確認を行っている。定期的な避難訓練を計画し、行っている。実際の地震の際には、先生の指示の前に机の下に入って安全行動をとる生徒が多かった。今後も継続していく。

◎担任、級外が連携し、生徒の様子を観察している。いじめアンケートやQUテスト(学級の分析ツール)などを行い、いじめや不登校の未然防止に努めている。

△学校としては、いじめや不登校の未然防止に力を入れ、早期発見・早期対応を行っているが、対応が十分と感じていない保護者もいる。関係生徒・保護者との面談を行い、現状の共通理解・対応に努めていく。

参考 いじめ認知件数 7件 (R2より継続3件)
 不登校生徒数 2人

《シェイクアウトいしかわ》



《防災学習・・・避難所準備》



(2) 生徒の確かな学びを保障する学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 生徒一人一台端末を積極的に活用し、個別最適化された教育の実現に努める。			○積極的な授業実践と研修に取り組み、効果的な活用方法を模索する。			
② 主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を推進する。			○生徒の様子、変容を視点とした、研究授業を実施する。			
③ 体験活動や総合的な学習の時間を活用して、教科横断的な学びを推進する。			○体験活動等の目的やねらいを明確にし、活動後にその成果を実感させる。			
		質問内容	判定		R2 7月	
教職員	②	学校生活において生徒に目標を持たせ、その目標を達成するための具体的な働きかけを行っている。	A	100.0%	A	100.0%
	⑧	各種学力調査の分析を生かし、学習指導の工夫・改善に努めている。	A	93.3%		/
	⑨	個別最適化された学びの実現に向けて工夫している。	A	92.9%		/
	⑩	授業では、積極的に学び合い活動を取り入れている。	A	93.3%	B	77.8%
	⑪	学び合い活動で、生徒は学び楽しさを感じている。	A	86.7%	B	77.8%
	⑫	主体的、対話的で深い学びが実現されている。	A	86.7%	C	66.7%
	⑬	自然や社会との関わりを意識した学習内容も取り入れている。	A	92.9%	A	100.0%
	⑭	授業では、生徒一人一台端末を積極的に活用している。	C	53.3%		/
	⑮	体験学習・総合的な学習の時間で、教科横断的な学びを関連づけている。	A	93.3%		/
	⑯	授業の約束4か条を意識し、指導している。	A	100.0%	B	84.2%
生徒	A1	授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいると思う。	A	91.4%	A	91.7%
	A2	授業では、自分の考えを発表する場面が与えられていると思う。	A	89.2%	A	93.0%
	A3	授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。	A	95.0%	B	86.5%
	A4	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聴くことができていると思う。	A	96.4%	A	97.2%
	A5	授業では、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると思う。	A	85.6%	B	80.5%
	A6	授業の自分の考えを発表する場面では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していると思う。	B	79.9%	B	74.8%
	A7	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	A	87.8%	A	86.1%
	A8	学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	A	94.2%		/
保護者	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	82.4%	B	82.4%
	⑦	お子さんは、毎日1時間以上の家庭学習をしている。	C	61.0%	C	52.2%
	⑨	家庭では、テスト10日前から、9時以降、3ノ（ノーテレビ、ノーゲーム、ノーSNS）に取り組んでいる。	D	42.6%	D	45.1%
	⑩	家庭では、学校の話などの会話をよくしている。	B	73.5%	B	73.9%
判定基準	A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)					

【考察・改善】

◎授業においては、感染対策を意識しながら、通常の授業を展開できている。生徒が自分の考えを持ち、それを伝え合い学び合う活動を取り入れることを共通実践している。生徒もその学習スタイルに慣れている。2学期は生徒のアウトプットの場面にこだわって授業をしていく。

△生徒の1人1台の端末については、定期的に研修を行い、実践の交流をしている。教師間、教科間によって利用状況に差があるのが課題である。授業の中で、効果的に利用できることを共通実践していく取組を積み重ねていきたい。

△家庭学習の量については、今年度も大きな課題である。約4割の生徒が1日1時間以上の学習習慣がない。毎日の宿題を提出することすら、ままならない生徒も一定数いる。家庭でのインターネットの利用時間が多いことと関係が深く、その時間をいかに学習へと向けていくかが課題である。生徒が自主的に進めていく課題や授業と関連した宿題など、内容を工夫することで家庭学習時間の量を増やしていきたい。

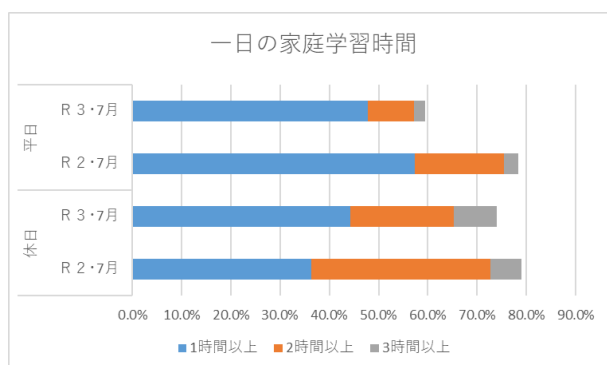
《研究授業・・・学習スタイルの実践》



《GIGA 校内研修・・・端末の学習会》



《生徒の家庭学習の状況・・・アンケート結果》



《3ノートの結果・・・期末テスト期間の平均》

	1年	2年	3年	全校
テレビ	76.2%	88.5%	92.0%	85.6%
ゲーム	74.1%	92.7%	94.6%	87.1%
SNS	75.0%	92.1%	94.6%	87.2%

※6/19～28の10日間

(3) 教師の研修意欲が高い学校					
本年度の努力事項			具体的な取組		
① ワークライフバランスを向上させ、子どもと向き合う時間の確保に努める。 ② 人権感覚を高め、指導力を高める研修を推進する。 ③ 日常的に共通理解やコミュニケーションを図る職場づくりを進める。			○日々の業務の効率化を推進し、遅くとも午後8時までに退校する。 ○授業中、生徒を指名する際は呼び捨てにしない。 ○報告・協議事項は事前に紙またはサーバー内で文書化し、周知する。		
質問内容			判定		R2 7月
教職員	⑱	日々の業務の効率化を意識し、遅くとも午後8時には退校している。	A	93.3%	/
	⑲	校内研修は指導法の工夫・改善等に役立っている。	A	100.0%	/
	⑳	授業中、生徒を指名するときは呼び捨てにしていない。	B	80.0%	/
	㉑	報告・協議事項は、全員に周知されている。	A	86.7%	/
生徒	B1	自分にはよいところがあると思う。	B	75.5%	B 78.4%
	B2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	A	88.5%	A 87.5%
保護者	④	学校は、何事に対しても誠実に対応している。	A	86.0%	A 97.8%
	⑤	教職員は、生徒の気持ちや内面を理解しようとしている。	A	85.3%	/
	⑥	授業はわかりやすいと言っている。	B	82.4%	B 82.4%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)			

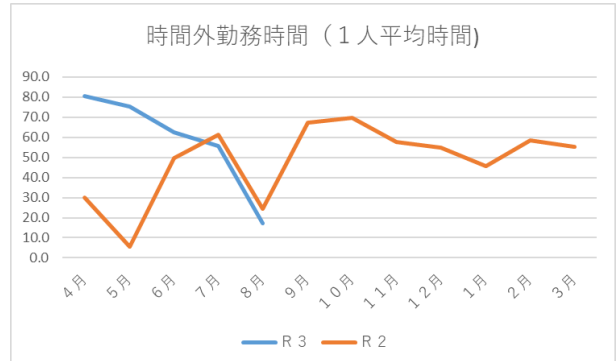
【考察・改善】

◎4月・5月は、校務処理や生徒への対応、学習の準備などに時間が必要となり、下校時刻が21時を過ぎる若手職員が多かった。しかし、校務の効率化が進んだことに加えて、コロナウイルスによる緊急事態宣言などで、20時までに退校する習慣ができてき、現在も取り組むことができている。

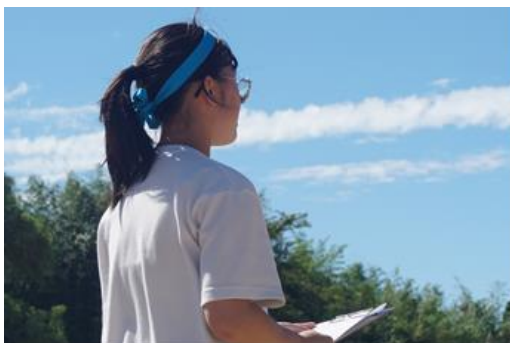
◎授業や行事などで生徒一人一人が活躍する場を設定し、自己肯定感を高められるようにしている。褒めることでやる気を伸ばし、挑戦させ、成功体験を積ませることで自己肯定感を伸ばしたい。

△生徒と友達感覚で話したり、名で呼び捨てにしたりする職員がみられる。授業では、どの生徒にも同様に接することで、差別意識をなくすためにも呼び捨てにしないように徹底していきたい。

《職員の平均時間外勤務時間》



《体育祭の指令係》



《総合的な学習の時間でのポスターセッション》



(4) 地域社会の一員として信頼される学校						
本年度の努力事項			具体的な取組			
① 学校公開や日々の教育活動についての情報発信を積極的に進める。			○月2回以上、学校HPを更新する。			
② 学校評価は焦点化した評価項目に絞り、改善の方向や方策を提示し公開する。			○学校評価結果を学校HPで公開する。			
③ 地域人材や施設を積極的に活用し、社会に開かれた教育課程の構築を進める。			○各学年2回以上、地域人材を活用した授業を実施する。			
質問内容			判定		R2 7月	
教職員	⑦	生徒は、学校生活を通して元気にあいさつや返事をしている。	B	73.3%		/
	⑧	地域の人材・教材を取り入れた授業を年2回以上実施(予定)している。	B	73.3%		/
	⑨	保護者・地域へ、積極的に情報発信を行っている。	B	80.0%		/
生徒	B13	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	B	75.5%	B	72.1%
保護者	⑩	教職員は、保護者との連携を密にしている。	B	72.8%		/
	⑪	学校からの各種便りの発行やホームページの更新などは十分である。	A	90.4%	A	95.0%
判定基準		A (肯定回答 85%以上)、B (70%以上)、C (50%以上)、D (50%未満)				

【考察・改善】

◎地域社会の一員として信頼される学校として、情報の公開に努めている。特にホームページの更新は、写真を交えながら頻繁に更新し、学校での教育活動を紹介している。一日で約400件の閲覧数があります。

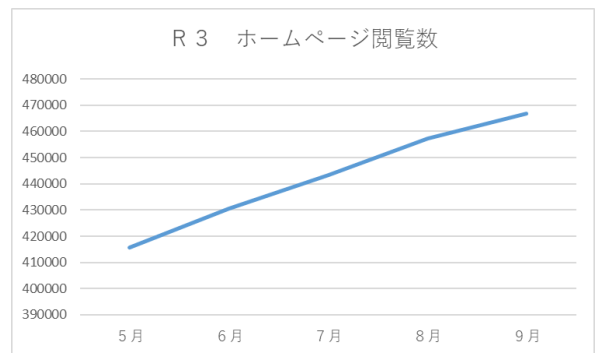
◎コロナ禍のため、外部講師の招聘や学校公開に制限がある中、本校の元校長である橋本朗氏にお話を伺ってオリンピックトーチを生徒に見せていただいたり、海洋教育の一環として町の施設を訪問したりしている。今後もキャリア教育や有権者教育などで外部人材を活用していく予定である。

△前述のようにコロナ禍のため、PTA 総会や授業参観が開かれず、保護者に学校での生徒の学びの姿を見ていただく機会が少なくなっている。また、体育祭や部活動の大会でも保護者の入場を制限している。そのため、学校だよりや学級通信の発行、担任からの連絡を密にすることで連携を深めていきたい。

《外部講師・・・橋本氏による講演会》



《HP閲覧数の推移》



《救急法・AED講習会・・・日本赤十字社の岩本氏》

